本物の"ことば力"
大修館書店

時代が求める英和へと
ジーニアスは
常に進化します。

20年目の大改訂。

より新しく。 新語・新語義を多数収録。見出し語・ランク表示・語義の配列・語法注記・発音など、すべてにわたって、現代英語の実態を反映した内容に刷新。特に用例を総点検、大幅に入れ換えた。

より詳しく。 語法解説はさらに進化。小さな注記にも、適切な用語による解説とわかりやすくするための細かい工夫をこらした。「類語比較」欄、「文法」欄など、一歩進んだ内容のコラムを特設。

より見やすく。 ページの横幅を拡大し、開きやすいしなやかな造本に。目的の語義にすばやくたどり着ける「語義展開図」を新設。特大見出しを採用し、レイアウトも見やすい設計で刷新。

より学びやすく。 重要なコロケーション(連語関係)を太字表示。原義・基本義欄、前置詞のイメージ図解など、ボキャビルに役立つさまざまな情報を増補・新設。教える・学ぶ立場に立った工夫が満載。

G4

GENIUS
English-Japanese Dictionary
Fourth Edition

収録語句 9万6000

学習英和のトップランナー、さらに前進。

ジーニアス英和辞典 第4版

編集主幹
小西友七・南出康世

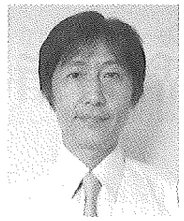
●B6変型判・2,272頁・2色刷
定価3,465円(本体3,300円)
978-4-469-04170-5

[革装]
●B6変型判・2,272頁・2色刷
定価5,040円(本体4,800円)
978-4-469-04171-2

[机上版]
●A5判・2,272頁・2色刷
定価6,090円(本体5,800円)
978-4-469-04172-9

巻頭エッセイ

英語を「身につける」?



江原美明

もう10年以上も前，勤務していた高等学校のバレーボール部のコーチが，「子どもに自転車の乗りかたを教える方法」を伝授してくれた。まず，補助輪を片方だけ外し，しばらくその状態で子どもを自転車に乗らせる。慣れてくると，補助輪が地面から離れ，なんとなくバランスを取っている時間が長くなる。そこを見計らってもう片方の補助輪も外すのである。早速自分の子どもに試してみると，2，3日の公園通いで乗れるようになってしまった。

最初は片方の補助輪に頼りながら，次第にふらふらとバランスを取って走れるようになる様子を眺めていて，英語もこんな風に教えられないかナァと思ったものである。補助輪が乗る人のバランス感覚へと姿を変えるように，学校で教える文法や語彙などの知識を，英語によるコミュニケーション能力へと変化させ，英語を身につけさせるにはどうしたらよいかと。

そう思う反面，高校現場では諸般の事情から，理想と現実の狭間に立たされることになる。進学に必要な英語の知識や技能，論理的思考力を効率的に教えるには，「補助輪を片方はずしてふらふら走らせる」余裕などないと信じ込んだり，もともと「自転車に乗ること」自体に興味がない学生には，知識や技能の習得よりも，楽しさや動機付けを優先させたり，やはり知識や技能よりも人間教育や教養教育だろうと達観してみたり，常に悩みながら授業に臨んだ，というのが私の高校教師時代である。

だから，短大に入学してくる学生が，生き生きと英語を話す姿を見ると，その秘密が知りたくて仕方がない。学生を見ていると，文法的正確さや語彙力の差とは別の次元で，ちょうど，補助輪ありの自転車となしの自転車では重心の使い方に決定的な違いがあるように，英語の話し方（書き方）にも決定的な境界線があるように思えるのだ。単なる流暢さではなく，それなりのレベルで自分の英語を身につけているという感覚である。そういう学生に秘密を聞いてみると，長期留学などの海外経験は別として，2つの要因があるように思う。1つは，高校時代スパルタ式に多読をさせられたというような，集中的に努力をした（させられた）経験，もう1つは，何らかのきっかけでshyな自分を乗り越え，笑われてもいいから積極的に話そうという勇気を持つに至った経験である。

英語を身につけるとは，知識や技能を習得する努力をしつつ，自分の現在の英語力を衣服のように文字通り身にまとい，自分をさらけ出す勇気を持つことなのだなとつくづく感じる。私自身，正確な英語を書く必要のある時は，辞書やコーパスのお世話になりながら「よそいき」の英語を必死に着込み，その他多くの場面では，相手の善意と協力を頼みに，「普段着」のテキトウな英語を身にまとう。定期的にやってくる自信喪失状態をちょっぴりの努力と開き直りでカバーしながら，英語の教員を続けている。

先日，日本語の堪能なカナダ人教員に "I really wish I were a perfect bilingual." とボヤいたら，彼曰く "Nobody is a perfect *monolingual* in the first place." との返事。あっ，そうだった。完璧な人間はいないんだ。完璧の呪縛から解放され，目的や場面に応じて，「よそいき」だけでなく心の通う「普段着」の英語を身につけられる授業をしなければ。すぐにお払い箱になる魔法の補助輪役を目指して。

（えはら　よしあき・神奈川県立外語短期大学准教授）

辞書指導，これだけは教えておきたい

佐藤哉二

本誌38号（特集「辞書指導を考える」）で私は次のように書いた。「生徒が辞書を引く目的は何か。考えるまでもなく，それは『単語の意味を知るため』であろう」。そして，単語の意味を知り，語法も自分で検索できるようになれば入門期の辞書指導は任務完了となろう，と書いた。が，その先の課題としてたとえば，辞書の用例に載っている The plant died from want of water. のなんでもない1文がコンテクストによっては聞き手を責めていることにもなるということを生徒に気付かせる，そういう指導も必要だろうとまとめた。

辞書指導どころか，教科書を味わいながら読む時間さえないのが現状だろう。しかし3年間の英語学習というスパンで考えると，初期段階で辞書の引き方を教えておくのは効果的である。限られた総時数のなかでせめてこれだけは教えておきたいということを挙げてみたい。

■「この辞典の使い方」の通読を

生徒は辞書の約束事を案外知らないのではないだろうか。どの辞書にもそれぞれの約束事があり，「使い方」が細かく記してあるので，「読んでおけ」ではなく，骨子だけでも生徒といっしょに読んでほしい。

重要語のランク表示，派生語，語形変化，多義語，語義の重要度，コロケーションや成句の扱い，分離複合語など，その項目を追うだけでも，生徒は「辞書は単語の意味を調べるもの」という豆単式発想を修正するだろう。

「この辞典の使い方」に1時間は割きたいけれど，それが無理なら20分でもよい。こんな情報が詰まっているのだと生徒が認識することはそれからの英語学習に大いにプラスとなるはずである。

■［　］や「　の意味

記号の約束ごとで意外に理解されていないのが交換可能部分の表示法であろう。

『ジーニアス英和辞典 第4版』（以下G4）で play の例を見てみる。

play innocent［ignorant］何食わぬ顔をする

この場合［　］内の語は直前の1語と交換可能で，2通りの句は意味が同じである。

play「in goal［as goalkeeper］ゴールキーパーをする

2語以上の場合は交換の起点を「 で示し，日本語が1つであるからやはり意味は同じである。

交換される語が複数あり意味が異なる場合は次のように表示される。

play doctor［war, school］お医者さん［戦争，学校］ごっこをする

この言い換え可能の書式は，語義の日本語，用例の日本語訳でも同じである。

play along［自］協力［賛成］する（ふりをする）

まれに別々の個所が重なってしまうことがあり，生徒には煩雑と思えるかもしれないが，読み方は同じである。

give［allow］full play to one's ability［abilities］能力を十分に働かせる

訳語が1つなので，どの組み合わせも可能なのだとわかる。

ちなみに（　）が省略可能を表すことは理解されているようだ。

紙幅の都合で詳しく例をあげられないが，G4では〔　〕はコロケーションを示している。

〈曲・音楽〉を〔楽器で〕演奏する〔*on*〕

〔　〕の日本語と英語が組になっている。

このような約束ごとは出版界で統一されたものではなく辞書により異同があるので，各種の辞典が並ぶ教室では初期の指導で教えておきたい。

■選択制限

選択制限とは主語に「物」が使えるとか，目的語に「人」が使えるなどの情報で，たとえば OALD は「人」には sb，「物事」には sth を採用している。G4では〈人〉〈物〉〈事〉の3つに分けているが，これで日本語に引きずられることを避けられる。

challenge ㊌❷〈人が〉〈人〉に〔試合などを〕挑む〔*to*〕

日本語では「アルプスの壁に挑む」「論争を挑む」など，目的語に人以外が可能だが，英語ではそれができないことを〈人〉が示している。生徒は単語の意味だけを知りたがり，語彙数の不足を心配するが，このような選択制限に敏感になることで言語の運用能力が高まることに気付かせたい。

なお，〈人〉には人が働く有機体も含まれることは機会をとらえて教えておきたい。

spend ㊌❶〈人が〉〈金額〉を〔物に/…するのに〕使う〔*on, in,*《主に米》*for* / do*ing*〕

spend の用例として OALD は The **company** has spent thousands of pounds updating their computer systems. を載せている。会社などの組織体も〈人〉なのである。

■原義・基本義

日本語では「鰆」は読めなくても魚の一種だなと高校生にも見当がつく。英語ではそうはいかない。abuse を単語カードに「虐待する」と書いて覚えるのは苦痛である。そのような時に原義・基本義に目を通すように指導したい。

abuse【原義:（本道から）逸脱して（ab）用いる（use）】

ab＋use なら use は知っている。ab が「逸脱」を表すことを知れば abnormal に思い至る生徒もいよう。さらに接頭辞の ab- まで引いてみる生徒も出てくるに違いない。

基本義については，もう紙幅がないので例をあげないが，break などを参照されたい。

■コロケーション

英文を読んでいてわからない単語に出会うと，生徒はそこでいったん読むのを止めて辞書に手を伸ばす。たとえば "No other organ ....." とあると，organ を調べようとする。

organ ❶器官；臓器．❷オルガン．❸機関，組織．❹機関誌［紙］．

引いた単語にはたいてい3つか4つくらいの語義があるが，どの語義かを決める手だては実は文中にあるものだ。

No other organ in the history of life is known to have grown as fast as the brain.

この life, brain から関連語の❶を選ぶ。自分の思い込みを排する辞書の引き方も教えておきたい。

コロケーションや語と語の緊密な結びつきは用例にも盛り込まれている。たとえば

In one experiment, subjects were kept awake continuously for 72 hours.

という英文中の experiment と subject は G4 の subject 名❸の用例に

the subjects of an experiment 実験の被験者

の形で載っている。成句でも慣用句でもないこのようなコロケーションの蓄積も大切であることを教えておきたい。

（さとう　さいじ・『ジーニアス英和辞典』編集委員）

語彙指導のヒント
――覚えられない原因の特定と解決策

相澤一美

■なぜ覚えられないか

英単語がなかなか覚えられない。これは，英語が苦手な生徒にとっては特に苦痛の種であろう。いやいや，生徒だけでない。英語教師にとっても永遠の悩みの種である。かく言う私も，英国で開催されたある語彙習得セミナーで，ヨーロッパ出身の英語を母語としない研究者の語彙の豊富さに舌を巻き，自分の英語力に絶望した経験がある。

一般に「単語が覚えられない」と言うが，実はこの現象はそう単純ではない。「単語が覚えられない」ことを「単語と出会って意味がわからない」と単純化しても，単語が覚えられない原因には以下の４つのケースが考えられる。

1 その単語と出会っていなかった
2 単語には出会ったが，意味を覚えなかった
3 単語の意味を覚えたが，忘れてしまった
4 単語の意味をたまたま思い出せなかった

ケース１　単語と出会っていなかった

その単語と出会わなければ，その単語の語形や意味も覚えられない。知らない単語に出会ったら文脈から推測するように奨励されるが，前後の手がかりが十分でないと，推測は不可能である。誤った意味で推測し，それが定着する危険性すらある。

単語に出会う機会を増やすためには，たくさんの英語を読んだり聞いたりする必要がある。多読で多くの単語に出会うことにより，辞書や語注で意味を調べたり，繰り返し出会って意味を考えたりするうちに意味を偶発学習することが多い。教師は，生徒がより多くの単語と出会うことを奨励する必要がある。

ケース２　意味を覚えられなかった

新しい単語と出会っても，その単語の意味を覚えなければ記憶には残らない。つまり，出会ったときに記憶への書き込みが不十分では覚えたことにならない。新しい単語情報を未知の言語材料として符号化することを記銘と呼んでいる。「単語が覚えられない」と嘆くケースのほとんどは，この記銘に失敗していると考えてよいだろう。

単語と意味をリストにして覚えるだけではなく，声に出して繰り返したり，異なった例文で意味を確認したりして，記銘を保証することが必要である。一般に，学習時の処理水準が高ければ高いほど，記憶に残りやすいと言われている。

ケース３　意味を忘れてしまった

せっかく覚えた単語も，使う機会がなければ忘れてしまうこともある。一度記銘した情報を記憶に貯蔵することを保持と呼んでいる。

一度覚えた単語の記憶を保持するには，小テストを定期的に実施して復習の機会を設けたり，実際に単語を使う練習をさせたりすることが必要である。単語のリストを眺めるだけでも効果的だ。

ケース４　意味を思い出せなかった

その単語に出会ったとき，またはその単語を使おうとしたときに，たまたま思い出せないということは少なくない。時と場所に応じて語彙エントリーから単語を検索して記憶から呼び起こすことを想起と呼んでいる。

単語を必要な場面で想起できるようにするためには，記憶に保持した単語を取り出す機会を設けることが重要である。一度その単語を想起できれば，二度目からは思い出しやすくなるであろう。

以上，概観したように，単語を覚えられないのは，記銘，保持，想起の１つ以上で失敗した結果である。原因がどこにあるのかを冷静に分析して，その対応策を取らなければならない。

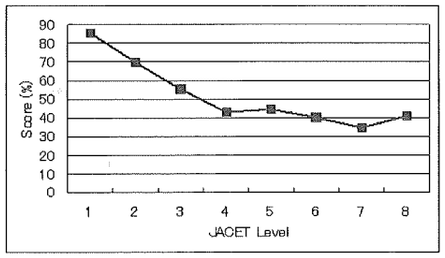
■覚えるための効率を上げる工夫

1．基本語の学習

できるだけ効率的に語彙を学習しようとするのであれば，学習する語彙数をできるだけ絞り込むことが得策である。重要な語彙は，どの分野にも共通する「基本語彙」と学習者の専門別に分かれる「専門分野別の語彙」に分けられるだろう。

基本語彙として，例えば高校入試の場合は「JACET8000」の1000語レベルを，大学入試の場合は4000語レベルまでの頻度の語を挙げることができる。実際には，頻度順の関係でこの中に含まれなかった語彙「Plus 250」が含まれるので，高校入試で1250語，大学入試で4250語となる。

大学入試で頻度4000語までを優先する理由は，筆者が学習者の語彙知識を頻度別に調査した結果によっても裏付けられる。



このグラフは，ある大学のクラスで実施した，JACET8000の頻度別に作成した語彙テストの得点の平均を示している。4000語レベルまでは頻度と得点率が負の比例関係にあるが，5000語レベルを越えると頻度と正答率の関係はほぼ横ばいとなる。つまり，基本語レベルを越えると，頻度と語彙テストの得点の間の関係はほぼ一定してくる。この結果から，基本語の学習を最優先し，その後に学習者が進むであろう専門分野別の語彙を学習した方がよいという解釈が成り立つ。

高頻度の単語の完全学習を目指した方がよい理由がもう一つある。それは，単語の生起頻度という視点である。例えば，government と responsibility はそれぞれ JACET8000の1000語レベルと2000語レベルに属すが，100万語の BNC コーパスの生起頻度では622と93と大きな開きがある。つまり，100万語の英文を読んだ場合，government に出会う期待値は622回であるが，responsibility は93回にしかならない。頻度レベルが接近した単語でも，この場合，出会う期待値は約７倍も異なる。頻度レベルの差が大きくなれば，出会う期待値の差はさらに広がるであろう。高頻度語を漏れのないように学習することが重要である。

2．チェックリスト方式

現在筆者が注目しているのは，岡山大学の寺澤孝文氏らが研究している，潜在記憶を活用した語彙学習である。紙面の都合で詳細は割愛するが，突き詰めて言えば「チェックリスト方式」である。最初に単語と意味を提示して，学習者がそれを学習する。次の段階では，その単語に対して自己評定を「３　良い」「２　もう少し」「１　だめ」「０　全くダメ」の４段階で行う。次の段階では，覚えられなかった単語を優先的に提示して，また同様に手順を繰り返していく。

一見単純ではあるが，チェックリストによってごくわずかの学習成果を潜在記憶に蓄積していき，やがてそれが膨大な数の単語の習得に結びつくというものである。この方法論に準じた DS ソフトが市販されている。また，同様の学習方法は単語カードを使っても実現可能である。

高校時代に，自転車通学の道すがら，手の甲に単語を10語ずつ書いて覚えた思い出がある。今はゲーム感覚で語彙学習ができるようになった。確実に時代が変化していることを痛感している。

（あいざわ　かずみ・東京電機大学教授）

◎実践紹介①――『ジーニアス英和辞典』

英語への興味と確かな学力を保証する辞書指導

小岩井秀樹

■はじめに

多くの進学校では，「紙の辞書」を使うよう指導している。本校においても基本的には「紙の辞書」を使わせている。高校生がまず辞書を使いこなせるようになるためには，「紙の辞書」がベストであり，英語への興味と確かな学力を保証してくれる。本年度新入生に対して実践してきた，ささやかな辞書指導例を紹介しながら，私見を述べたい。

■指導例①「国語科との共同作戦」

「紙の辞書」を購入させるためには，英語科だけでなく，国語科と協力するとよい。そうすることで，学校の指導方針の統一性が図られる。新入生・保護者あてに「国語・英語の辞書購入について」という通知文を出す。その中で，基本的に「紙の辞書」を購入するよう伝えて，理解を得る。入学前のオリエンテーション等で，新入生に口頭で主旨説明した。基本的には，学校の方針をよく理解していただき，保護者・生徒からの問い合わせはなかった。

■指導例②「毎時間辞書を机上に置いておく」

英語ⅠおよびO.C.Ⅰの授業で，必ず毎時間辞書を机の上に置いておくよう指導している。授業中に辞書を引かせながら，辞書指導をする。

【例】

・教科書の1ページに出てくる他動詞を，全て引かせる。(辞書で他動詞・自動詞を意識するよう動機付けしたいとき)

・重要な文法項目・語法に関連した例文を，各自の辞書で調べさせる。気に入った例文を黒板に書かせ，ゲーム感覚で例文集を作らせる。(G4の「be＋不定詞」の例文は簡潔かつ分かりやすい。)

■指導例③「授業での指導事例」

多くの高校では，「予習→授業→復習」のサイクルで学習習慣を定着させるよう指導する。予習の際，新出単語等を辞書で調べなければいけない。ほとんどの生徒は中学生のときに辞書を引いた経験がない。だから，最初のうちは，授業の中で辞書指導をする必要がある。授業中に辞書指導として取り上げた例を挙げる。

【単語の例】light

"I learned to see my own country in a new light."

(Lesson 1 New Faces, New Places, *CROWN English Series I*, New Edition, 三省堂)

単語"light"をG4で調べさせる。名❺として「[形容詞を伴って](物事の)見方，見解，観点‖see the crime in various ～s その犯罪をいろいろな観点から見る / put things in a different ～ 物事を違った見方をする(後略)」とあり，さらに，成句に「see O in a better [different, new] light …を見直す[異なった角度から見る，新しい見方をする]」がある。多義語をどのように辞書で最終的に調べるか，G4を使うと，とても分かりやすい。辞書によってはsee O in a better [different, new] lightについて一切取り上げていない事例がある。

辞書を引いたとしても，分かりやすい解説や例文が見あたらなかったとすると，辞書を引く意欲を喪失しかねない。辞書選びは重要だ。

【構文の例】so that ～

教科書に，下のように「so that構文」が出てくる。授業では，辞書を引かせて最終的に確認させた。その後，しばらくして学習相談に来たある生徒は，次のようなことを言っていた。「実は家では，単語の意味を調べるときには素早く引けるので電子辞書を使っています。でも，この前の授業でやった『so that構文』は，やはり『紙の辞書』のほうが理解しやすいです。」このような重要項目を引くと，「紙の辞書」を使うことのメリットを生徒は自然と理解してくれる。

"An American had a plan to build flatboats supporting the temples so that when the water rose, the temples would also rise." "A British scientist suggested leaving the temples under the water so that we could see them as in an aquarium." (Lesson 3 Abu Simbel, 同上)

■指導例④「副読本で辞書引きトレーニング」

本校では伝統的に，1・2年次に副読本を年間10冊ほど読ませている。1年次の前半に与える副読本には，辞書引きトレーニングと読解力養成を兼ね備えたものを選んだ。現在，5冊目である。レポートを提出しなければいけないので辞書を引かざるを得ない。感想文には，「辞書が速く引けるようになった」，「何回も辞書を引かなければいけないので，途中で嫌になったが，課題を完成させた時には，自信がついた」等の感想が見られた。中学校で辞書を引いたり，物語・神話，推理小説等を英語で読んだ経験がある生徒は，ほとんどいない。多読と辞書引きのドッキング作業は，生徒の英語学習史上，二重のカルチャーショックである。だから，2倍効果があると言える。

ある副読本には次のような設問がある。特に下線部分に注目していただきたい。

【設問例】

> let を辞書で引き，次の解説を読んで下の問に答えなさい。
>
> Let me try once more. (私にもう一度やらせてください)
>
> 上のように let には「let＋目的語 (me)＋動詞の原形 (try)」の形をとる用法があります。しかし動詞の次に前置詞や副詞がくると動詞が省略される場合があります。次の英文では get が省略されています。日本語に直しなさい。
>
> (1) ll. 10–11. Please let me [get] out, too!
>
> (2) l. 13. I won't let any more bad things [get] out of the box!
>
> ＊ let out や let out of は成句として辞書にのっていることもある。
>
> ＊君の辞書によると上の用法の場合，get の他にどのような動詞が省略されると書いてありますか。

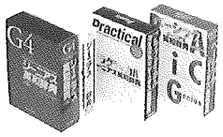
(Brook Neal & Susumu Kamaike, *Mischief of the Gods*, 山口書店)

辞書によっては，下線部に関しての記述が何もないことが，生徒の質問によって明らかになった。下線部の設問について，「辞書で調べてみたのですが，何も書いてありませんでした」と質問に来た生徒が数名いたのである。しかし，G4を持っている生徒たちは答えることができた。辞書選びは重要だ。

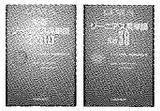
■終わりに

私が昔使った様々な辞書(英和，和英各種辞書)を教室に持っていき，「辞書ライブラリー」を作ろうかな。英英辞典も何種類かさりげなく置いておこう。興味を持ってくれる生徒がいることを願って。即効性や結果をすぐ求められる時代だからこそ，生徒たちに良質な辞書を，じっくりと読ませ，眺めさせたいものだ。

(こいわい　ひでき・長野県立上田高等学校教諭)



特集
辞書指導と語彙指導



◎実践紹介②――『ジーニアス英和辞典』

辞書とカードの活用で語彙力を

佐藤洋治

■はじめに

本の受け売りであるが，私は「外国語は一に単語，二に単語，三，四がなくて五に文法」との考えを持っており，ある程度の語彙力も文法力もないまま，communicative な英語能力を育成するための「タスク」をさせたり，あるレベル以上の英文を読ませたりしてもあまり効果は上がらないと考えている。多読・速読はなおさらである。

私にとって辞書指導と語彙指導は同義である。外国語学習は辞書とその言語を使ったテキストでさせたいと思う。生徒たちが大学進学後，あるいは社会人になってからも自学自習できる「土台」のようなものが育ってくれたらと願っている。

それにつけても，辞書によるにしろ他の教材によるにしろ，また語彙だけに限らず英語学習全般において，生徒たちの吸収力を効率的に高める方法がないものかと私は常に考えている。予習や復習の状況をノートやプリント類で頻繁に点検するのは教師側の負担が大きすぎる。逆に負担になるからといって点検の回数を減らすと生徒たちが勉強しなくなるのではとの不安がある。教師側には全く都合のよい話であるけれども，辞書を読んで得た必要な情報を，生徒自身にその手を動かして書き取らせたい。かつその作業の結果を教師の負担を増やさずに確認したい。これを可能にする方法はないものだろうか。

■授業中の困難をきっかけに

中学時代に辞書を引いた経験のない生徒たちがほとんどであるにもかかわらず，本校英語科では統一的な辞書指導や英語の学習法についてのオリエンテーションは行っていない。しかし私個人のレベルでは，文型や文脈を考えて辞書を引く大切さや，辞書を引く回数に比例して英語力が向上することを日頃から力説してきた。だから「最初は苦労するかもしれないが，予習段階でじっくり辞書を引けば，自然に辞書の活用法を会得してくれるはず」などと甘い理想を持っていた。そんな時にあることが起きた。教科書で扱う rest の訳語のことであった。

Genius English Course II（旧版・大修館書店）の Lesson 8 には “They knew that if Shackleton stopped to **rest**, and fell asleep, he would freeze in the snow.”，Lesson 9 には “In Africa, when giraffes or other large animals eat acacia trees, the newly eaten leaves send out an SOS to the **rest** of the trees.”，そして Lesson 10 には “The shape of the *sho* is thought to resemble a phoenix **at rest** with its wings upright.” と，rest が 3 つの課に連続して登場する。

rest の訳語を求めて『ジーニアス英和辞典』にあたると，順に「休む」（動詞），「…の残り」（名詞），最後の at rest は成句扱いで「(1)静止して．(2)眠って．(3)安心して，平静で．(4)永眠して．」とあり，generic な訳語は「休み」（名詞）で記述は明快である。しかし，文脈を考えずに「残り」に対して「休息」との訳語を選び，平然としている生徒が複数いたことがわかり，愕然とした。予習の段階で，文型や文脈に応じて辞書を引くよう指導していたにもかかわらず。この時点で，理想としていた「予習での自発的な」辞書指導はあきらめて「今，ここで」の辞書指導へと切り替えざるをえなくなった。こうして教室で一斉に辞書を引かせる「手取り足取り」方式の辞書指導が始まった。もちろん，予習段階で辞書を引くことの大切さは言い続けた。

しかし，「手取り足取り」方式で語句を確認したにもかかわらず，定期試験の採点感覚からすると，期待していたほどの手応えがない。そこで，一定の規格を持ち，辞書の記載情報の浸透状況を確実にチェックできるものを探す必要に迫られた。さらにそれは教師側のチェック後に生徒たちがさほど無理なく復習に活用できるものでなければならなかった。

この時，単語カードを「思い出した」のである。個人的なことで恐縮だが，学生の頃，ある大学で教鞭をとっておられたアメリカ人の先生と知り合いになった。それ以前に日本語の学習経験が皆無にもかかわらず，先生は日本で日常生活に困らないレベルの日本語を話しておられた。先生から漢字を見事に使った暑中見舞いをいただいて驚いた。後日，失礼と思いながらも漢字の覚え方を尋ねると，カードを使い効果を上げておられるとのことであった。実際に，お手製の大判の「漢字カード」を見せていただいたこともある。先生は，漢字を表に，読み仮名を裏に書いて携行なさっていた。これは生徒たちの語彙＝辞書（活用）指導に使えるのではと考えたわけである。

■教室での具体的な取り組み

以下に，カードを用いた辞書指導の実際について，事前・事後指導も交じえて紹介したい。

① 単語帳（ノート）ではなくあえてカードにするメリットは，覚えきれていない語句のカードだけを携行できることにあることを説明した。

② カードの大きさは，書き込ませたい辞書の情報量を考えて，大判を指定した。

③ 授業開始時に机上に辞書とカードがあるか確認させる。

④ 教科書各課の新出語句プリントを事前に配布して予習させ，教室で指名して生徒に答えさせる。間違えた場合は，私が文脈や文法の説明をする。例えば，上記の Lesson 8 では「stopped の後ろの to は to不定詞だから rest は動詞で調べよう！」という具合に。その後，一斉に辞書を引かせ，間違えた生徒には訳語や例文を大きな声で読ませる。

⑤ 調べた語句は，一斉に辞書に蛍光ペンなどで下線を引かせる。

⑥ カードを用意させ，英語の語句を表面に，訳語や例文を裏面に書くよう指示を出す。発音記号の記入は必須とはしない。ただし，例えば，黙字を含む注意すべき単語（muscle, debt）などの場合は，発音記号も裏面に書かせる。また，当該語句に対する注意すべき同義語（表現）や反意語（表現）がある場合は私が板書し，裏面に書かせる。

⑦ 既に確認してある語句以外の語句や，教科書以外の補助教材等から拾った語句は，必要に応じて同じ指示を出し，カードに記入させる。

⑧ 語句の記入重要度は私の指示で，「必須語句」と「準必須語句」の 2 つに分けた。「準必須語句」のカード提出については，各生徒の力量と判断に任せた。結果的には，点検時に提出するカードの枚数が生徒によって違ってよいことを認めた。

■おわりに

カードで提出させた語句の一部は校内定期試験でその定着度を確認できた。しかし，全てを網羅できる試験は未だ実施できておらず，これが今後の課題である。けれども，最大の効果は，当初こちらの指示に窮屈そうに反応していた生徒たちが，今ではこちらの指示なしで机上の辞書に手を伸ばしてくれるようになったことかもしれない。

（さとう　ようじ・青森県私立弘前学院聖愛中学・高等学校教諭）

『G4 活用問題集』を使った辞書指導

小嶋義勝

真新しい英和辞典を手にしたものの，正しい上手な使い方を知らないために，宝の持ち腐れにしている生徒は多い。そんな状況を目の当たりにすると，英和辞典の効果的な使い方をどこかで時間を割いて指導する必要を感じる。

『ジーニアス英和辞典〈第 4 版〉活用問題集』（以下，『G4 活用問題集』）は，『ジーニアス英和辞典 第 4 版』の基本的な使い方を，実際に辞書を使って問題を解きながら学習できるように作られている。辞書指導の教材にお薦めしたい。

『G4 活用問題集』は，11のテーマについて，「例題」「辞典の引き方（辞典本文の抜粋を含む）」「練習問題」の 3 つのパートから成っている。

以下，テーマごとに，辞典の引き方に関する学習内容と指導上のポイントを概説する。

1 ［単語］意味を調べる

①見出し語はアルファベット順に並んでいる。

ポイント 通常の英和辞典の最も基本的な決まりである。成句・複合語などの順序も同じであり，辞書を使いながら慣れさせることが肝要。

②多義語・多品詞語に関して，ア）語の意味の分類とつながりを一目で全体的に捉えられる語義展開図がある，イ）意味や品詞は使用頻度順に出ている，ウ）特に使用頻度が高い意味は太字になっている。

ポイント 目指す語義への近道として，「語義展開図」「使用頻度順」「太字」を活用させたい。

2 ［単語］発音・アクセントを調べる

①見出しの次に発音記号があり，最も強く発音する箇所には / ´ / がついている。

ポイント / ´ / と / ` / の違いも指導を要する。

②（同音）はスペリングが違うが発音は同じ語，（類音）は発音は似ているが異なる語を示す。

ポイント 特に，（同音）であげられている既習語は，同音異義語という新たな側面を示し，生徒にとっては語彙の知識を増やす良い機会となる。

③［発音注意］［アクセント注意］で，間違えやすい発音（例えば，ローマ字式発音やカタカナ英語的アクセントなど）への注意を促している。

ポイント 最近では多くの生徒が電子辞書を持っている。電子辞書により実際に耳で正しい発音を認識させるのも大変有効である。

3 ［単語］変化形を調べる

①名詞の見出し語は通例単数形である。不規則変化の複数名詞も見出し語として出ている。

ポイント 不規則変化の複数形と思われる場合はその形で引く，と指導するのも一方法である。

②動詞の変化形は全部 ──動 の後ろの（ ）の中に出ている。不規則変化の過去形・過去分詞形も見出し語としてあがっている。巻末には「不規則動詞活用表」がある。

ポイント 動詞の変化形の効率的な学習（復習）に「不規則動詞活用表」の利用を勧めたい。

③形容詞と副詞の変化形は，──形，──副 の後ろに出ている。

ポイント 特に，2 音節語の形容詞・副詞の変化形や，変化形自体がない形容詞・副詞（辞書には（比較なし）と表示してある）について注意を促す必要がある。

4 ［単語］派生語・反意語を調べる

①多くの語には派生語や反意語がある。派生語は［派］で，派生先と派生元の関係は→と←で，反意語は↔で示されている。

ポイント「練習問題」の中に「文中の意味に応じて，指示された形の語」を書く問題がある。多義語の派生語にも関心を向けさせたい。なお，派生語・反意語の指導自体は，既知語・既習語を使って行うほうが効果的であろう。

5 ［文型］動詞の型を見抜く

①動詞の使われ方には「型」があり，各語義番号の後ろに，S, V, O, C などの記号を用いて示されている。

ポイント 動詞の使われ方を「型」で捉えることを学ばせたい。「練習問題」では無生物主語構文も扱っており，英語的な発想にも目を向けさせる良い機会である。

6 ［成句］名詞・副詞・形容詞の成句

①成句を調べる時は，意味の中核をなす語で調べる（名詞を含む成句はまず名詞で調べる）。

ポイント 目的の成句に素早く到達するための大事なスキルなので十分指導したい。

②成句は，各見出しの最後の部分に，太字のイタリック体でアルファベット順に出ている。

③成句が用例としてあがっていることもある。

7 ［成句］動詞の成句［自］［他］［自⁺］

①動詞の成句の型は，成句の見出しの後ろに，［自］［他］［自⁺］で示されている。

②［自］は「自動詞＋副詞辞」，［他］は「他動詞＋副詞辞＋目的語」（または，「他動詞＋目的語＋副詞辞」），［自⁺］は「自動詞＋前置詞＋目的語」の型を示す。

ポイント［自⁺］がとる目的語は前置詞の目的語で語順は変わらないが，［他］のとる目的語は他動詞の目的語で語順は変わることがあることを，特に徹底したい。また，「練習問題」に句動詞を 1 語で言い換える問題があり，それを通して語彙の拡大を養う姿勢も育てたい。

8 ［連語］いっしょに用いる前置詞・副詞

①連語は，語義番号の後ろに［ ］で示してあるか，語義の後ろに〔 〕で示してある。

ポイント〔*to, for, of*〕〔*for, on, to, toward / in* (do*ing*)〕などの記述が意味することを正しく理解させたい。

②動詞とよくいっしょに使われる副詞は，語義の後ろに（＋ ）で示してある。

ポイント 例えば（＋*up*）は「up は必須ではないがよく伴われる」ことだと理解させたい。

9 ［類語］似た語を使い分ける

①類義語やその用法の理解には，類語比較 や《◆ 》が役立つ。

ポイント 類義語の誤用は，語義領域の違い，使用場面に対する無関心，コロケーションの知識不足，母語の干渉など，種々の原因で起こる。用例による学習が効果的である。

10 ［接辞］接頭辞・接尾辞を利用する

①接頭辞や接尾辞が見出し語として出ており，単語や派生語の意味・成り立ちを学ぶのに役立つ。

ポイント 接辞の知識は上手に使えば未知語の意味の推測や語彙力アップにもつながることを，問題に答える過程を通して実感させたい。

11 ［日本語化した英語］ カタカナ英語は注意しながら活かす

①［アクセント注意］［発音注意］《◆ 》の中に，カタカナ英語に関する注意すべき情報がある。

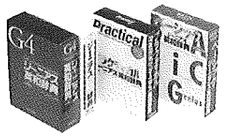
ポイント カタカナ英語は，語句・音声・意味の 3 点から検討することを習慣化させたい。

＊　＊　＊

『G4 活用問題集』は，自習教材，授業中の指導教材のどちらにも使用できる。また，すべての項目を集中的に学習させるほかに，ここぞというときに必要な項目を学習させるのも効果的である。

教師は，学習者が自ら学ぶ行為を手助けする facilitator でもある。英和辞典を片手に一人でも英語学習を進められる，たくましい自立した学習者を育てたいものである。

（こじま よしかつ・千葉県立茂原高等学校教諭）



特集
辞書指導と語彙指導

◎実践紹介③――『プラクティカル ジーニアス英和辞典』

『プラクティカル ジーニアス』は実にpracticalである

小澤幹生

■高校入学時における辞書選択

高校入学時に購入する英和辞典として，紙の辞書か電子辞書かという選択がある。持ち歩きのしやすさと複数辞書検索が電子辞書の最大の強みであるが，画面表示の狭さを補うためか，検索結果が階層構造で表示されるため，一覧性に難がある。じっくり腰を据えて学習する際は，重さは関係ないし，高校入学時点では，複数辞書検索するよりも，一つの辞書で語義・用法をしっかりと確認する方が大切である。良質の辞書が電子辞書に収録されている場合もあるが，それは本来紙の辞書を想定して編集されたものであり，階層構造の最初の画面だけを見ていたのでは，宝の持ち腐れである。

他校の多くと同様に，本校でも入学前に推薦辞書を提示し，事前に購入してもらうのだが，上位版の『ジーニアス英和辞典』を薦めてしまうと，中に収録されているから同じだろうということで，電子辞書を購入してしまう可能性がある。そこで候補に挙がったのが『プラクティカル ジーニアス英和辞典』である。語数こそ上位版に譲るが，高校の初歩学習で使う辞書としての工夫が随所にある。一部フィクションを交えて，授業時におけるその活用状況を以下に再現してみることにする。なお，私が1学年を担当する際に，『プラクティカル ジーニアス』を，推薦ではなく指定の辞書にしてもらった。授業時に辞書を積極的に活用するには，全員が同じ辞書を持つことが不可欠だと判断したからである。参照してほしい箇所をページで指示できるという利点もある。

■授業時の具体的な活用例

①教員「『トイレを貸してください。』を英語にしましょう。A君，どうぞ。」

生徒A「May I borrow the toilet? ですか。」

教員「文の構造はいいですね。でも，2箇所直した方がいいですね。まず，辞書の1610ページを見てみましょう。『トイレ』は確かにtoiletですが，直接的に響くからbathroomの方がいいですね。次に184ページを見てみましょう。赤い囲みの〈使い分け〉の箇所にあるとおり，borrowは動かせるものを借りるときに使います。トイレの場合はuseを使うんです。この場合borrowは駄目だと×がついているでしょう？」

②教員「B君，7行目の“Radioactive waste”で始まる英文を訳してください。」

生徒B「ラジオ活動のゴミが……」

教員「それでは文脈に合わないでしょう。辞書で確認してみましょう。1247ページ。放射性廃棄物のことですね。では，ついでに，1930ページ，〈語要素一覧〉のradio-も見てみましょう。radio-は放射線，または無線に関する語の最初につくことが多いんです。語要素を多く知っておくと，語の意味の見当がつけやすいんです。」

③教員「Cさん，『多くの家具があります。』を英語にしてください。」

生徒C「There are many furnitures.」

教員「どうでしょうか。まず631ページを引いてください。furnitureは集合名詞で単数扱いです。集合名詞がわからないですか。では，〈文法のまとめ〉の1902ページ，集合名詞の項目を見てください。君の答えは残念ながら，×のついた誤りの代表例と同じでしたね。気をつけましょう。」

④生徒D「I was exciting at the game.」

教員「exciteの使い方はそれでいいかな。531ページで確認してみましょう。まず，動詞exciteは『興奮させる』ですね。それがexcitingになると『他人を興奮させるような』という意味の形容詞になり，excitedだと，『本人が興奮した』という意味になるんです。この場合，主語の人が興奮しているんだから，excitedが正解です。例文もあるでしょう。電子辞書だとこれらが一度に参照できないし，例文は〈用例ボタン〉を押さないと出てこないから，かなり不便ですね。」

⑤教員「黒板を見てください。Eさんは『小澤先生』の箇所を“Ozawa Teacher”と書きましたが，これはどうでしょうか。辞書の1563ページを見てください。teacherの下，赤い囲みの〈語法〉欄です。英語としては，“Mr. Ozawa”が正しいですね。」

このように折に触れて授業時に辞書で確認していけば，巻末の〈語要素一覧〉，〈文法のまとめ〉の存在が認識できるし，家庭学習時にも適宜活用してくれることになる。電子辞書には単語の音声収録を売りにしている機種も多いが，〈発音のてびき〉欄を利用して発音記号の読み方の指導ができていれば，紙の辞書でも大丈夫である。『ジーニアス』レベルの辞書になると，高校生向けの巻末付録がつかないが，『プラクティカル ジーニアス』だと，簡単な和英索引までついている。初歩の英作文では，和英辞典で引いた語句をむやみに使うよりも，知っている語句をうまく使いこなした方が自然な英文になる場合が多い。正確な英文を作成するには，和英で引いた語を英和で引き直す必要もある。高校初期の学習では，電子辞書の中の本格的な和英辞典を使わなくても十分なのである。

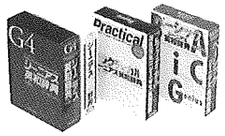
■必要に応じて電子辞書へ移行

上記のように，教科書を中心とした高校入門期の英語学習では，実用的な紙の辞書での学習が効果的だと思われるが，学習のレベルが上がってくるにつれて，物足りなくなる生徒も出てくるであろう。必要に応じて電子辞書に移行するのは，今の時代，自然な流れでもある。ただし，辞書には豊富な情報が入っていて，電子辞書ではそれらが階層構造の奥に隠れていることを認識していることが大切である。その上で，英語学習の上級者には，英英辞典も引いて語義の感覚をつかんでほしいし，より複雑な内容を書きたい場合は本格派の和英辞典も時には必要になるだろう。その時こそ電子辞書の登場である。私も，2年生の後期からは授業時に使用する辞書を自由化した。電子辞書の『ジーニアス』，紙の辞書の『ジーニアス』等の学習用中辞典，引き続き『プラクティカル ジーニアス』等，生徒たちは自分の好みとレベルに応じてそれぞれの選択をしている。

■終わりに

以前，所有している英語の辞書について，紙か，電子辞書か，どこの出版社の何という辞書かをクラスでアンケート調査してみた。電子辞書の場合，メーカーと機種名はわかっていても，中身の辞書の名称や出版社名がわからない者がいた。また，「辞書持ち込み可の英語の試験も存在するんだよ」という話をしたら，「それでは，みんな百点になってしまう。」と真顔で言った生徒がいた。これは極端な例だとしても，未知の語の意味を調べるためだけに辞書が存在すると思っている生徒は多い。「万能の電子辞書があるのに，今時紙の辞書を薦めるのは懐古趣味の英語教師の戯言だ」という誤解を受けないよう，電子辞書の利点は率直に認めながらも，本格的に辞書を使い始める高校学習初期における紙の辞書の有用性を，今後も訴えていきたいと思う。

（おざわ　みきお・東洋大学附属牛久高等学校教諭）



特集
辞書指導と語彙指導

◎実践紹介④――『ベーシック ジーニアス英和辞典』

高校初期における辞書指導の意義

池田好成

■辞書指導の開始

私が赴任した3年前は，本校では辞書の一斉購入が実施されてなく，辞書指導もほとんど行われていませんでした。前任校では，入学式前に教科書や副教材と一緒に全員同じ辞書を購入させ，4月初めに1年生の授業担当者全員で同じ内容で辞書指導をしていました。一人ひとりの生徒が興味・関心を持って楽しそうに取り組んでいたことから，私は，この方法は英語の好きな生徒はもちろんのこと，苦手な生徒に特に効果があるとの考えを持つようになりました。そこで，「学力的に前任校と本校はさほど変わらないのに，本校では辞書を購入させていない。近隣の中学校の英語の先生方の見方を考えても，部活動の指導だけでなく進学指導にも力を入れていることを理解していただくためにも，辞書の一斉購入ができないだろうか」と本校の教員に何度か投げ掛けたのです。賛否両論はあったものの，辞書指導をすることが決まり，2年目には『ベーシック ジーニアス英和辞典』の採用が決定しました。

■『ベーシック ジーニアス』採用の理由

『ベーシックジーニアス』は本家の『ジーニアス英和辞典』の流れを受け継いでいますが，さらに次のような点が本校英語科の教員に良い評価を与えることになりました。

①カタカナの発音表記がされていること

英語科教員のなかには，音声面でカタカナから入ることなど邪道であるとお考えの方も多いでしょう。実は私もその一人です。音声をすべて正確に文字で表せると考えることはナンセンスだと思います。しかし，英語が得意な生徒なら発音を推測できるかもしれませんが，苦手な生徒の場合，そうはいきません。辞書は最終的に生徒自身が使っていくものであることを考えると，そのような学習の入り方もあってよいのではないかと考えるようになりました。文字だけで正確な音が出せないとしても，授業で教師が模範を示すことで，その微妙な感覚を理解して身に付けてくれればよいと考えています。

②間違いやすい例文の表示

これは『ジーニアス』の初版以来の真骨頂のひとつで，『ベーシック ジーニアス』にも取り入れられています。例えば次のような表示は，生徒にとって非常にわかりやすいものだと思われます。

an exception to [×of] a rule (p. 485)

marry him [×to him, ×with him] (p. 853)

③生徒の素朴な疑問への対応

普段，生徒が学習していて何気なく感じる素朴な疑問が，「Q&A」という形でわかりやすく説明されています。例えば「Q：卵料理にはどんなものがありますか。」(p. 451) には，日常生活で私たちが目にする一般的な卵料理の英語での言い方が載せられています。これは，受験だけでなく，留学や観光で海外を訪れた時にも役立ちますし，何よりも英語に興味・関心を持ってもらう動機付けとして非常に手助けになると考えられます。

■本校の辞書指導の現状（導入期）

本校は平成12年から，それまでの普通科から単位制の総合学科に移行しました。英語Ⅰについては，40人のクラスを入学式後の予備テスト（実力テスト・課題テスト）で成績の上位と下位の2講座に分ける習熟度別授業を展開しています。それぞれの受講人数は，下位の生徒を手厚く指導できる観点から，上位の人数を多くし，下位の人数を少なくしています。

導入期の辞書指導をするのは4月初めの10日間ほどです。クラス全員一緒に，上位と下位担当の教師のティーム・ティーチングで実施し，『ベーシック ジーニアス』準拠の『活用問題集』を使いながら進めていきます。

『活用問題集』の使い方については，まず生徒に調べさせたい単語を黒板に書き，その品詞と代表的な意味（太字になっているもの・1番目や2番目に掲載されているもの），派生語や複数形を黒板に出て書かせ，全員に，あるいは個別に発音練習させています。担当教師によって指導の仕方に多少の違いはあり，私の場合，普段から「音読重視。授業で扱った単語や熟語，英文が読めないようでは授業を受けたことにはならない」と生徒に何度も説明していますので，辞書指導においても，1時間の授業中に，座席の列ごとに一人ひとりが最低2回はみんなの前で発音する機会を設定しています。『活用問題集』は，飽きがこないよう，多種多様な形式で作られており，生徒も楽しく使っていました。余白には教師が追加説明したことも書き込ませています。

定期テストにおいても『活用問題集』（今年度は前半部分）を試験範囲の一部とし，今年度の第1回目の定期テストでは20点分を出題しました。後半部分については，もう少し英語Ⅰに慣れた段階で使わせるのがよいと考え，9月以降の会議で使い方を検討することにしています。

■本校の辞書指導の現状（通常期）

担当者によって多少の違いはあるものの，おおむね2つのパターンに分かれています。

まず一つ目は，私もそうなのですが，授業中に辞書を引かせる方法です。私の場合，新出単語とその品詞，そして調べさせたい意味の数を書いたプリントを配って辞書を引かせます。示された数の意味を生徒に黒板に出て書かせ，その意味が本当にその語にあるのかを確認します。それから全員に，あるいは個別に発音練習をさせます。

二つ目は，予習としてノートあるいはプリントにて調べさせ，授業中に確認させる方法です。

他にも様々な方法があるかと思うのですが，どちらにしてもこれらは標準的なパターンのうちの一つだと思われます。

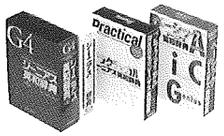
1年生の，特に初期の間は，「辞書に触れる」，「英語に親しむ」，「英語に興味や関心を持ってもらう」ということをねらいとしていますので，特別深く入り込んだことはしていません。

■辞書指導の必要性と問題点

現在は，教科書の進度の関係や電子辞書の普及もあって，辞書指導が非常に実施しにくい状況にあるようです。本校では幸いにそのようなことはなく，問題点は，新出単語の意味調べが予習として宿題となった時に，家庭へ持ち帰るのを生徒が面倒がる，ということぐらいでしょうか。これは，休み時間や部活動が休みの放課後を利用させれば解決できることですので，さほど深く考えることはないと思っています。

現在は教師の指示で辞書を使用していますが，勉強は本来，生徒が自発的に行うのが理想です。その過程でわからない単語に出会った時に，さりげなく辞書を引いて意味や派生語を調べられることがたいへん重要であり，その橋渡しをすることが私たち英語科教員の役割だと考えています。さらに，単なる予習や受験のためだけではなく，少しでも多くの高校生に辞書のおもしろさが伝わり，英語そのものに興味・関心を持ってもらえるならば，それ以上の喜びはありません。

（いけだ　よしなり・石川県立松任高等学校教諭）



特集
辞書指導と語彙指導

辞書の発音表記と発音指導

南條健助

本稿では，英和辞典や英英辞典などの発音表記との関連で，よりよい発音指導のために3つの提言を行ないたい。紙幅が限られているため，さっそく本題に入ることにする。

■発音表記を確認し直そう

教員も，折あるごとに，辞書で発音表記を確認し直すことをお勧めしたい。英米の英語発音は，ここ数十年間で大きく変わってきた。また，ALTとの授業が増え，教室で様々な発音が聞かれるようになった。したがって，発音表記を改めて確認してみると，意外な発見があるかもしれない。その点で，筆者が発音表記を担当した『ジーニアス英和辞典 第4版』(G4) には，英米の辞書にもまだ載っていないが，すでに一般的になっている最新の発音や，日常会話などでしばしば耳にするくだけた発音，さらにはよく用いられる非標準的な発音まで，今日，英米で実際に使用されている発音が豊富に盛り込まれており，ご参考になるものと思われる。

例えば，以前，ある高校の先生から，ALTがespecially をexpecially のように発音するが，そのような発音もあるのかというご質問を頂戴した。これは標準的ではないが，よく知られている発音であることから（数年前に，expecially という発音の使用について，全米で方言調査が行なわれたことがある），G4では《非標準》として /ɪks-, eks-/ という発音も載せておいた。ALTとの授業において，生徒がこのような発音を実際に耳にしている以上，教員はALTが用いた発音が標準的であるか否かを調べて，必要に応じて生徒に指導しなければならない。こういった情報を載せている英和辞典は，大型のものも含めてG4だけであり，お役に立つものと信じる。

また，発音表記を改めて確認してみると，教員でさえ間違って発音を覚えていた語が見つかるかもしれない。例えば，NHK『ラジオ英会話』テキスト2008年8月号p.24において，That'd be great. という英文の発音が取り上げられている。そこでは「子音の連続」と題して「That'd は /t/ 音を飲み込むような音になり，すぐそのあとの /d/ につながります」（ママ）といった誤った解説がなされている。おそらくはt'dという綴り字に惑わされた誤解であろう。実際には，/t/ の音と /d/ の音の間に弱母音 /ə/ が入るため，/t/ の音と /d/ の音が連続することはない。これは，辞書でthat'dの発音表記を調べれば，すぐに分かることである。

■「聞こえ方」を教えよう

辞書の発音記号は，子音や母音の音素（phoneme）を表したものであって，実際には，同一の発音記号であっても，語の中での位置や，前後にどのような音がくるかという条件によって，様々に異なった音で発音される（特に，/t/ の音や /l/ の音が顕著である）。教室では，CDなどを手本にしながら，「聞こえた通りに真似をして，発音してみなさい」といった指導がなされているが，辞書の発音表記（カナ表記を含む）と実際に聞こえる発音との間にギャップがあるため，生徒は内心「そう聞こえるのは，自分の耳のせいではないか」などと戸惑い，聞こえた通りに真似をすることをためらう傾向がある。これでは，いくらCDを聞かせても，生徒の発音は良くならないし，聞き取り能力も向上しない。そこで，それぞれの語が実際にはどのように聞こえるかという一つの目安として，「聞こえ方」を教える必要がある。

例えば，dullという語は，発音表記では /dʌ́l/ であり，［ダル］というカナ表記を併記している英和辞典もあるが，実際には［ダル］ではなく［ドウ］のように聞こえる。そのような「聞こえ方」を知らなければ，［ドウ］という発音を何度聞かせても，それがdullであることは分からないであろう。逆に，一旦「聞こえ方」を知れば，次からは［ドウ］と聞けばdullであることが分かるはずである。したがって，生徒には，語を覚える際には，実際に聞こえた発音をそのまま耳に残し，綴り字を覚えるのと同様に，「聞こえ方」も覚えてしまうように指導することが大切である。かつて筆者も［エクセデス］という発音を聞いて，すぐにそれがexodusであることが分からなかった経験がある（G4では，第3刷（2008）で《米+》として /éksɪdɪs/ という発音を追加した）。近い将来，例えば《◆［ドウ］のように聞こえることがある》といった「聞こえ方」の注記が入った英和辞典が出現することを期待したい。

■どうすれば音が出せるのかを説明しよう

言うまでもなく，辞書の発音表記は，発音の仕方そのものは教えてくれない。かつて「表記を変えても生徒の発音は変わらない」と言った人がいるが，至言である。いかに工夫された発音表記であっても（カナ表記を含む），その表記が表している音をどう発音するのかを知らなければ，何の役にも立たない。発音の仕方を教えるのは教員の役目であるが，発音指導においては，英語の母語話者が，どのようにして音を出しているのかという記述だけではなく，日本語の母語話者は，どのようにすれば音が出せるのかという具体的な方法まで説明する必要がある。

一例として，ring, song, youngなどの /ŋ/ の音について考えてみよう。この音は日本語においても用いられる。「サンカ」（参加）や「マンガ」（漫画）など，カ行またはガ行の音の前にある「ン」が /ŋ/ の音である。ただし，日本語の「リング」や「ヤング」と異なり，英語のringやyoungは，綴り字にgの文字があっても，/ríŋ/ や /jʌ́ŋ/ のように，/g/ の音は発音されない。最後の「グ」は余計である。まず，この点を生徒にきちんと理解させる必要がある（もっとも，15世紀頃までは，このような /g/ の音は発音されていたし，イングランドの一部には，今でも /g/ の音を発音する話者が存在する）。

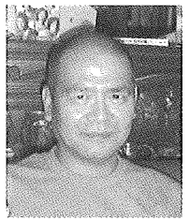
そこで，/ŋ/ の音の発音の仕方であるが，例えば，竹林滋・斎藤弘子『ルミナス英和辞典 第2版 つづり字と発音解説』（研究社，2005）には，「舌の後部を上あごの奥につけて声が口へ出ないようにし，鼻の方へ声を通して発音する」(p.17) と書かれている。なるほど英語の母語話者がどのようにして音を出しているかという記述としては正確であり，分かりやすい。しかし，「舌の後部を上あごの奥につけて」と指導され，それができるようであれば，その生徒はすでに音声学者である。同書のような記述で終わってしまえば，一般の生徒は /ŋ/ の音を出すことはできない。

では，日本語の母語話者は，どのようにすれば /ŋ/ の音が出せるのであろうか。筆者の教え方は簡単で，「頭の中では『ング』と『グ』を発音するつもりで，実際には『グ』を言う直前で止めればよい」というものである。上で述べたように，「グ」を言う直前の「ン」は，そうしようと思わなくても自動的に /ŋ/ の音になるため，この日本語のクセをうまく利用して，いわば舌を「騙す」わけである。一度この教え方をお試しいただきたい。

（なんじょう　けんすけ・桃山学院大学国際教養学部准教授）

◎実践紹介⑤――『ジーニアス英単語2200』

Build Up Vocabulary



川崎洋一

■近年の生徒の変容

本校に赴任して８年が経過したが，学習指導要領の改訂を境に，生徒の英語力，英語学習に対する態度に大きな変容が見られた。感覚的に英文を捉える生徒や，予習習慣が確立していない生徒が増加した。土台となる文法力や語彙力，そして論理的な読解力を習得できていないので，大学入試に堪えうるレベルに到達させるためには，英語学習に対する認識の変革から始まって，予習復習の学習方法の指導やチェック，中学レベルの文法の総復習など，きめ細かな指導を余儀なくされた。

現在第１学年を担当しているが，特に今年度の生徒は，書いて英語の学習をしようとする態度や，辞書を引く習慣が身についていない。つまり，語彙力が低く，向上する素養に欠けているのである。テストで高得点を取る生徒でも，take の過去分詞を talked と書いたり，walk と work の発音を混同したりする。地域ナンバーワンを自負する生徒の所行とは考えられない惨状である。

学習形態として，「暗記中心の反復型学習」→「受動的習得型学習」→「自発的探求型学習」という発達段階があり，難関大学合格のためには，いかに「自発的探求型学習」に移行できるかが鍵であると思う。語彙力や文法力を向上させるための学習は「暗記中心の反復型学習」の性格が強く，本校の生徒はその重要性を軽視し嫌悪する傾向にある。語彙に関しては，入学当初より単語集を採用し，英語Ⅰ・Ⅱの授業を中心に豆テスト・追試を繰り返すが，生徒はその場しのぎの学習に終始し，語彙力の定着や向上には至らない。文法に関しても同様であるが，生徒自ら語彙不足を痛感するのは，他の教科や英語の長文読解力の向上のために時間をかけてほしい，つまりもう手遅れではないかと思う頃である。「暗記中心の反復型学習」と「自発的探求型学習」のギャップを，男子校特有のなり振り構わない学習で克服していく生徒もいるが，両者間のアンバランスな学習形態にリズムを崩し，第一志望校に合格できなかったり，さらに１年の受験努力の継続を余儀なくされたりする生徒も少なくない。

■『ジーニアス英単語2200』の採用に当たって

語彙指導で肝要なことは，語彙学習の重要性を自覚させること，反復，効率性，そしてどの生徒も信頼を置ける最良の単語集を選択することであると考える。私は本校に赴任する前から，長文の中で単語を覚えていく形式の単語集を採択し，豆テスト・追試を行うと共に，その長文を元にオリジナル長文問題を作成し課題として課してきた。今年度も入学時よりその単語集の初級編を使用し，同様の指導で夏季休業をもって一通り終了させることができた。しかし，生徒の語彙学習の素養の欠如や，長文で用いられている意味しか覚えようとしない功利的態度と，その単語集の煩雑化した構成（参考語が増加したり，関連語を集めた箇所が増加したりしたこと）から，長年採用し続けたその単語集との決別を決意し，本校の生徒が受験まで安心して頼ることができる単語集の選定に着手した。

選定に当たって最も念頭に置いたのは，①質的にも量的にも，１冊でセンター試験から難関大学の入試まで対応できる単語が収められていること，②構成がシンプルで，自学も指導もしやすいこと，であった。市販されているほぼすべての単語集を吟味したが，上記の観点から群を抜いていたのが，『ジーニアス英単語2200』であった。

本書は Build Up・Step Up・Jump Up の３部構成になっているが，編集者の苦労の成果が如実に現れた各部の収録語で，各部を終了すれば，センター試験・難関大・最難関大の長文問題に対応できる語彙力を効率よく習得できる。生徒のレベルに合わせて到達点を設定できるので，教師側は指導が容易で，生徒側もモチベーションが上がると思う。各ページきっちり10個の単語という実にシンプルで学習しやすい構成で，無理なく規則的な学習ができる。見出し語は日本語の意味が赤字であるが，派生語は英語の単語が赤字になっているので，単語を書いて覚える習慣も身につけられる。Genius Point などのコラムや〔識別〕〔参考〕などの欄も，重要事項が的確かつ必要最小限に収められており，無駄なことは極力省きたがる生徒でさえ，自然と目が届く。人気が出て改訂を重ねる中で余分なコーナーを増やしたり，カラフルにしたりする単語集が少なくないが，“Simple is best.”，この形を堅持してもらいたい。欲を言えば各レベルに準拠した長文問題集があれば申し分はないが，各レベルの過去問等を解きながら本書で確認していけば，生徒の本書に対する信頼度が高まり，学習意欲はさらに向上するので，その問題も解消されるであろう。

■『ジーニアス英単語2200』を用いた語彙指導

しかし，いかに良書であろうが使用法や指導法を間違えれば悪書となってしまうのは必然である。最大限の効果を上げるために担当教員で検討し，以下の指導計画を立てた。まず長期的目標として，第１学年２・３学期・春季休業で Build Up を，第２学年１・２学期で Step Up を，第２学年３学期・第３学年１学期で Jump Up を完了させることとした。

具体的指導を Build Up を例にして説明したい。自学により１日10語で週70語を暗記するように指示し，翌週50問（英訳問題20問・和訳問題20問・派生語問題10問）の確認テストを行う。正解率70％を合格ラインとして，不合格者には追試を課す。定期テストの週は課題・確認テストは課さないが，テストの出題範囲に組み込んで，それまで学習してきた部分を総復習させる。このペースで進めれば，冬季休業前に Build Up の１周目を終了することができる。そして冬季休業中に総復習をさせ，３学期始業時に Build Up 全てを対象にした確認テストを行う。３学期は，２学期と同様の指導を行うが，ペースを１日20語で週140語に上げる。春季休業前に全範囲の確認テストを行い，正解率80％に届かない生徒には，春季休業中に特別指導を行う。並行してセンター試験やそれと同レベルの過去問を授業や課題で解くことにより，語彙力の定着と語彙学習の重要性の認識の深化を図る。Build Up の取り組みを元に指導の微調整はあり得るが，基本的には Step Up，Jump Up も同じ方針で指導する意向である。

■おわりに

「たかが語彙，されど語彙」。語彙指導はあまり深追いしてはいけないが，文法と共に，英語学習の基盤をなす重要な部分である。基盤が堅固なものでなければ，その上に立派な城を築いても崩壊しやすいのは自明である。英語の学力を向上させる要因は様々あると思うが，意欲的にコツコツと努力を続けた生徒が確固たる英語力を我がものにできるような指導を心掛けていきたいと思う。指導内容等でお気づきの点があれば情報交換やアドバイスをしていただければ幸いである。

（かわさき　よういち・群馬県立高崎高等学校教諭）

◎実践紹介⑥――『ジーニアス英単語2200』

科学的に考えるボキャビル

磯邊真一

単語を覚えることがよほど好きでたまらないという人を除いて，誰しもが英単語を覚えることに苦労した記憶があるのではないでしょうか。ここでは「記憶」というメカニズムを科学的に考えながら，私が実践していることを含め，ボキャビルの学習法や指導法について考えていきたいと思います。

■モチベーションを高めるために

まず記憶について考える前に，生徒自身にモチベーションがなくては話になりません。そこで，時間のない生徒を除いて，英検や TOEIC などの検定試験を活用するよう勧めています。特に英検は，資格になるだけでなく，受験以外の身近な目標ができるということで，英語学習の大きなきっかけとなります。さらにこの試験は語彙分野があり，各級に応じた語彙数がなければ合格は困難なので，自分の目標とするレベルが明確で学習しやすいというメリットがあります。語彙だけではなくリーディングやリスニングのパートもあり，英語全体のスキルアップをするためのバランスがかなり良いのです。ボキャビルのそもそもの目的は英語力を高めることですから理にかなっていると言えるでしょう。英検を受けると語彙力を高めようという意欲が湧く人が多いようです。しかし，大学受験は他教科とのバランスも考えないといけないので，検定試験はできれば高校２年生までに活用し，英語学習習慣の基礎を確立させておく方がよいと考えています。

■右脳と左脳を使い分けた学習法

左脳は言語脳とも言われ，計算や暗記などを理論的に考える顕在意識脳で，主に学習をしているときに活躍する脳とされ，右脳と違って容量は小さく，ものを忘れることによってものを覚えるという特徴があります。一方，右脳は，感覚脳と言われ，芸術作品を見たり，壮大な風景を見たり，音楽を聴いたりするときに活発になる脳とされています。この右脳は，膨大な量の計算をしたり，感覚的にものを記憶データとして取り込む潜在意識脳で，ここに取り入れられたデータは短期記憶というよりむしろ長期記憶としてストアされます。左脳だけでなくこの右脳を利用した学習方法により，覚えやすさを体感できる人も多いようです。

簡単な応用例を紹介しましょう。紙（ルーズリーフなど）と赤ペンを用意し，覚えたい語句などに黄色の蛍光ペンでハイライトします。すぐその上あるいは下（自分で決めた位置）に，赤で意味を書き込みます。この書き込むという作業では左脳を，蛍光色と赤色が視覚的に右脳を刺激し，未知の語句を映像としてインプットできるのです。これは右脳と左脳との両方を使った暗記法として効果があります。蛍光ペンは経験上，暗くなるようなものは使用しない方がよいでしょう。次にルーズリーフやノートを用い自分だけの単語帳を作成し，それを読む，書く，見るなどして覚えることで，長文を読んだ後の内容とのリンクにより記憶の相乗効果が期待できます。受験に関しては，これに加え単語集を用いてボキャビルさせるようにしています。

■短期記憶と長期記憶の利用

認知心理学の分野において，人間には短期記憶と長期記憶があり，試験が終わった後にすっかり忘れてしまう記憶が短期記憶で，小さい頃の記憶が今でもしっかり残っているといった類の記憶が長期記憶だと考えていただければよいでしょう。長期記憶は膨大な量を長期的に記憶でき，受験に利用しない手はありません。例えば小テストがあるので単語を20個覚えないといけないというときには，すぐさま短期記憶として脳にデータがストアされます。語呂合わせを作ったり，発音したり，書いて覚えたりすることも物理的刺激となり，長期記憶となりやすいのです。さらに効果を高めるために睡眠をうまく利用することが大事であることも知られています。

長文を読み，その中から単語を拾い，自分なりにノートにまとめ，自分だけの単語帳を作ることにより，長期記憶と短期記憶とがともに活用され，受験に通用する「語彙力」が身に付くと考えています。短期記憶を長期記憶とするためには努力が必要ですが，音声をうまく利用することでも右脳の長期記憶効果が期待できるでしょう。

■単語や熟語の理解

discombobulate や rambunctious などの単語はアメリカにいればどこかで出会うかもしれないレベルですが，受験には必要ないと言えるでしょう。また atavism などは GRE レベルの学習をする人を除いて英米圏にいても出会う確率は低く，時間が限られている受験生には覚える必要はないように思えます。しかし，revitalize や vivisection などの単語は形態素（morpheme）から意味を推測することで，また step on the gas や pull up stakes や hang by a single thread などの表現はその由来を考えることで語感が養われますので，そうするように習慣づけて語彙習得に役立てさせるようにしています。

語感を養うとともに，忘れてはならないのが，単語集の活用です。単語集を選ぶ観点はさまざまですが，入試に合格するというのが目的である以上，収録語数の少なすぎるものを選ぶことは良い選択だとはいえません。多少単語数が多くても省略すればすむわけですから，ある程度幅広いレベルの生徒を許容できるものを選ぶことが学校にとって一番のメリットなのではないでしょうか。

単語集の単独利用ではなく，長文読解と並行し，繰り返し学習することにより，短期記憶は長期記憶に変化し，効果的ですので，１年ないしは２年かけて使用するようにしています。

■『ジーニアス英単語2200』の長所

『ジーニアス英単語2200』は数ある単語集の中でも，計画的に使用すればかなり効果が期待できるものだと思います。まず，単語集の中では収録語数が比較的多いということ。前の『ジーニアス英単語2500』の時は，後半の「難単語」にある語が京大の下線部和訳問題に出題されていました。これは，この単語集の語彙数がそれだけ広く入試出題語をカバーしていることを物語っています。このように上級の大学を受験するときにも有効であるだけでなく，改訂された『ジーニアス英単語2200』ではセンター試験レベルの語彙に関してはこれまでの試験問題から用例を拾っており，センター試験にも役立ちます。

学校採用の場合は，小テスト作成用ソフトを利用することができます。このソフトで学習時期，レベルに合わせた確認テストを作成し，毎回の授業で実施することで，生徒に普段の学習習慣を身につけさせることもできます。高校３年生からでも対応できますが，できれば高校２年生あたりから利用し，高校３年生でもう一度確認することができれば，この『ジーニアス英単語2200』のよさを十分に引き出すことができ，余裕を持って受験に臨むことができると考えています。

（いそべ　しんいち・清風南海高等学校常勤講師）

総合コミュニケーション英語文法

岸野英治　著

岡田伸夫
（大阪大学教授）

伝統的な教員／学習者のための英文法書は，５文型や現在完了形，受け身，関係代名詞などの文法事項を柱にし，それぞれを個別に取り上げ，その形の上の特徴――たとえば「主語＋動詞＋目的語」とか「have＋過去分詞」とか――を提示し，次に，それらの意味や機能について説明する。

それに対して，本書は，時間（現在，過去，未来），法性（推量・可能性，命令，疑問など），否定，原因・理由，目的・結果などの概念と，許可・禁止，依頼・勧誘，提案・申し出，欲求・願望などの機能――現行の学習指導要領で「言語の働き」と呼ばれているもの――を柱にして編集されている。一言で言うと，本書は，コミュニカティブアプローチで用いられる概念・機能シラバスを具現化したものである。発信型の英文法書，表現のための英文法書と言ってもよい。

本書にはユーザーフレンドリーな工夫がいろいろ施されている。まず第一に，各章の冒頭に，その章で取り上げる概念や機能を例示する基本文例が10個程度，一目で俯瞰できる形で提示されている。たとえば，８章「依頼・勧誘の表し方」の冒頭には Will you, Could you, Can I, Would you be kind enough to, If you will, I wonder if, I'd like you to などで始まる依頼・勧誘表現が12例並んでいる。その次に，それぞれの形が担う意味や機能やそれぞれのスピーチレベルに関する簡潔で的を射た説明が出てくる。複数の依頼・勧誘表現を比較対照することによって個々の特徴を浮き彫りにする本書のアプローチは，TPO にふさわしい英語を使う能力を育成するのに極めて効果的である。複数の依頼・勧誘表現を，互いの意味や機能の違いに十分な注意を払わないまま，個別に学習する従来のアプローチだけでは，それらを TPO に即して使い分ける力を育成することはむずかしい。

例文が豊富であることも本書の顕著な特徴である。例文はいずれも，英語を聞き，話し，読み，書く場面で実際に使われる，生きた例文である。

すべての例文に日本語訳がついていることも本書の特徴である。日本語訳は読む必要がなければ読まなくてもよいが，意味を確認したいときには重宝する。

本文中には語法・文法に関する優れた記述が随所に見られる。また，NOTE や，例文につけられた注記に，近年の語法・文法研究で発掘された知見が簡潔に提示されているが，これらの中には進んだ読者の興味を引くものも多い。語法・文法に関する本書の優れた記述の例を４つだけあげておこう。have to に「～に違いない」という推定の用法があることを知らない大学生がいる現状を踏まえると，have to にも，must 同様，推定の用法があるという記述（p. 184）は当を得ている。また，文副詞の certainly を使う文が，certainly を使わない文より話者の確信度が高いと誤解している学生も少なくないので，certainly に関する「話し手の確信度が極めて高く，100％に近いことを表す」（下線筆者）という記述（p. 184）も有益である。また，would like to が，「好き」を表す like to の控え目で丁寧な表現ではなく，want to の直接的な言い方を避けた控え目で丁寧な言い方であるという明示的な説明（p. 283）も有益である。また，先行する主節を意味上の主語とする分詞の用法（Late frosts came, completely ruining the crops.）に言及している（p. 391）ことも，この用法が生の英語で頻繁に用いられていることを考慮すると適切である。

最後に，本書が，書名に「文法」という表現を含んではいるが，実際には語法に大きな比重をかけた本であることを付言しておく。そのことは，たとえば16章「強調の表し方」で，分裂文や疑似分裂文などの構文による強調を扱った部分が４ページ強にすぎないのに対して，perfect, entirely, ever などの語による強調を扱った部分が12ページに上るということや，つなぎ語（besides, in other words, by the way など）に関する記述が２つの章を占めているということに如実に現れている。

パラグラフ・ライティング指導入門 ――中高での効果的なライティング指導のために

大井恭子　編著
田畑光義・松井孝志　著

清水公男
（木更津工業高等専門学校教授）

英語を学ぶ学習者にとっても，英語を教える指導者にとっても，ライティングは大変負荷のかかる活動である。なぜなら，同じコミュニケーションの手段である「聞く・話す」活動と異なり，英語を書く行為はメタ認知と思考のプロセスを要する，ごまかしのきかない手間のかかる作業だからである。単語のアルファベットや語句・文をきちっと書くことから始まり，伝えたい内容やメモを箇条書きに整理し，プルーフ・リーディングを繰り返しながら書き，さらに書こうとしていることを読み手にできるだけ正確に伝えようとする作業は，書き手と書き手自身の間の，そして教師と学習者の間における根気比べの学習活動である。本書はこのようなハードルの高いライティング指導・研究に長年取り組んでこられた編著者の方々による示唆に富んだ，国内の教室にいる学習者の「学び」のプロセスを丁寧にたどっている指導書である。

特筆すべき点は２つある。１つは本書が，これまで出版された多くの TESOL からの受け売り的なライティングの指導書や問題集と異なり，具体的な授業実践例や英文例を豊富に紹介しており，しかも平明かつオーセンティックな内容になっていることである。もう１つの点は，ライティング指導を通じて，最近話題になっているクリティカル・シンキングという全ての教科教育に通底するリテラシーの涵養に寄与しようという意図が，随所に読み取れることである。

本書は全６章から構成されている。巻末には，高校入試と大学入試のライティング関連の問題が，入試対策のための資料として紹介されている。

第１章，第２章は理論編である。第１章ではライティングに関する認知的プロセスが詳述されており，第２章ではいわゆるパラグラフ・ライティングの概念が説明されている。第３章は第４章の豊富な実践指導例につながる章で，文レベルからパラグラフ・ライティングへの「橋渡し」的役割を果たしている。著者も述べているが，この部分がこれまでの日本のライティング指導では欠けていた部分であるというのはかなり当たっているのではないだろうか。今でも，さらに今後も存在するであろう，ライティング指導における accuracy vs. fluency 論争の根源も，この辺りにあると思われる。学習者がどの段階まで量的・質的に書けるように到達したら次の段階（パラグラフ・ライティングなど）に進んだらよいのか。文法ベースの指導（和文英訳等）にとどまるのか，それをどの段階でどう超えていくかなどのノウハウを，この章を読んだ方々と大いに議論したいところである。

後半の第４章には，中学校と高等学校で指導実績のある著者らによる詳細なステップを踏んだ，様々なタスクに対応した文章スタイルを指導する実践例が紹介されている。後半の高校生の作文指導例はかなりハイレベルな感じがしないでもないが，各指導事例における指導ロジックを自分の教室内の学習者レベルに合わせてとらえることで，いかに授業を組み立てていくかのシミュレーション的知見が得られるのはありがたい。第５章（個人的には第３章と並び関心がある）には中学校現場から得られた誤答分析のデータが収録されている。驚かされるのは，中学校におけるミスが高校になってもあまり改善されていないということである。自分の指導力不足を痛感しつつ，どのタイミングで，どのようにして学習者の躓きの指導（feedback）をすべきなのかと改めて考えてしまうのである。p. 218以降の誤答分析を授業に生かす箇所は，その方略等に関する色々な議論のトピックを与えてくれるが，本書のその他のページも読み込めば読み込むほど色々な話題を提供してくれる。その意味でも一読に値する本である。ここまで学習プロセスを支援する指導手順について触れてあるので，機会があれば，パラグラフ・ライティングの作業上の躓きのレベルに応じた具体的な feedback の方略のノウハウ，grammar for writing の指導法などについてもご教示を請いたいところである。

大修館書店の本

Books from Taishukan

◆コーパス分析の基礎から言語教育の実践まで詳しく解説
英語コーパスと言語教育——データとしてのテクスト
石川慎一郎＝著
（A5判・280ページ・定価2730円）

◆ヒトの認知パタンによる言葉の分析方法を解説
認知文法のエッセンス
ジョン・R・テイラー・瀬戸賢一＝著
（A5判・394ページ・定価2730円）

◆英文法を教える際の勘所を豊富な指導経験をもとに説く
英文法指導 Q&A ——こんなふうに教えてみよう
萩野俊哉＝著　※11月刊行予定
（四六判・248ページ・予価1890円）

◆身近なことほど英語で言えない。日常英語力を大増強！
〈クイズ〉英語生活力検定
小山内大＝著　※11月刊行予定
（新書判・208ページ・予価798円）〈定価＝本体価格＋税５％〉

お知らせ

『G.C.D.英語通信』は先生方と小社英語編集部との意見・情報交換の場です。小社英語教科書についてのご質問，お使いいただいた感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「GCD教科書 Question Box」などで随時ご紹介・ご回答してまいります。

また，小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿をお待ちしております。ご投稿は郵便でお送りください。採用分には薄謝を差し上げます。（採用・不採用にかかわらず原稿はお返ししません。）

なお，小社ホームページ「燕館」には別館「GCD English Teacher's Room」を設け，小社教科書の内容をご案内しているほか，英語の先生方に役立つ様々な情報を提供しております。小誌のバックナンバーもご覧いただけます。ぜひご活用ください。

http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/

◈営業便り◈

▶読書の秋になりました。先生方におかれましてはお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

▶平成21年度教科書の注文が全国から多数到着しました。ご採択くださった先生方に，この場を借りて厚くお礼申し上げます。各教科書準拠のCD-ROMやワークブックなどを発行しております。お問い合わせは，小社販売部もしくは最寄りの小社営業所までお願いいたします。

▶ご存じのように，2010年からセンター試験は過去問が出ることになりました。また，全国の国公私立83の大学が過去問活用の取り組みに参加し，今年度すでに６大学が過去問を使いました。

▶これに先駆け，弊社は今春，『新版 ジーニアス英単語2200』と『ジーニアス英単語 Step 38』を刊行いたしました。特に前者は，すべての例文が過去のセンター試験・各大学の入試問題を基にしたものであり，入試対策用として最強の単語集です。両書とも，準拠したテスト問題作成ソフト，音声CD（４枚組）もございます。ぜひ一度お手にとって，ご覧になってくださいませ。

◇編集後記◇

▶辞書指導と語彙指導。ともに語彙に関わることなのでひとまとめの特集としました。ですが，指導の内容というか実態には，小さからぬ違いがあるようです。辞書指導は，辞書には何が書かれているかの説明を含め，いわば「道具」としての辞書の使い方を教えることが第一です。語彙指導の表すところは広そうですが，語彙学習の重要性や語彙力を伸ばす方策を説くのがおそらく中心でしょう。

▶誌面の都合もあって今回は辞書指導と語彙指導に分けて執筆のお願いをしましたが，教室でこれらがどのようにリンクしているのかが気になります。つまり，辞書を引いた後に定着・発展のためのどのような語彙指導がされているのか。それとも生徒の主体に任せているのか。そもそもリンクしているのか。今回，佐藤洋治先生が一つの実践例をお示しくださっていて，興味深く読みました。

▶この気になっていることが私に「宿題」として残りました。加えて，辞書編集部に属する身として，辞書と語彙学習・指導のリンクという観点から何かを変えたり生み出したりすることはできないだろうか，ということも。（嵐）

Genius・Captain・Departure
英語通信
第44号
2008年11月1日発行
（年２回発行）
［出版情報］http://www.taishukan.co.jp

編集人　©「G.C.D. 英語通信」編集部
発行人　鈴木一行
発行所　株式会社 大修館書店
101-8466　東京都千代田区神田錦町3-24
Tel.(03)3294-2355（編集部）／(03)3295-6231（販売部）
振替 00190-7-40504　印刷・製本 文唱堂印刷株式会社

英語教育21世紀叢書

21世紀は英語教育の変革期。多様化する生徒に対応した効果的で魅力ある授業作りを提案します。
●各四六判　定価＝本体＋税5%

中学校英語授業 指導と評価の実際
——確かな学力をはぐくむ
杉本義美　著　●152頁　定価1,260円
授業の場面や活動について具体的な指導を例示し、一方で、評価活動の具体例を提示した、実践的ハンドブック。

英語語彙の指導マニュアル
望月正道・相澤一美・投野由紀夫　著
●256頁　定価2,100円
効果的な語彙指導のために——語彙のメカニズムに基づき、具体例を挙げて分かりやすく、効率よい語彙指導を紹介。

日本の英語教育200年
伊村元道　著
●320頁　定価2,520円
日本人はいかにして英語を学んできたか？——「英文法」「教科書」「辞書」「学習指導要綱」などジャンル別に英語教育を概観・展望する。

日本語を活かした英語授業のすすめ
吉田研作・柳瀬和明　著
●208頁　定価1,785円
限られた時間の中で授業の質を変えるには——限られた時間の中で効果的に英語を学ぶ、日本語を活かした指導法を紹介。

英語教師のためのExcel活用法
清川英男・濱岡美郎・鈴木純子　著
●232頁　定価1,890円
基本操作から裏ワザまで——テスト結果をどのように利用していますか？　学習効果測定他、効果的な指導のためのヒント満載！

【アイディア集】
「苦手」を「好き」に変える英語授業
瀧口 優　著　●192頁　定価1,785円
そのとき生徒はもっと英語が好きになる——英語嫌いの生徒から「英語ができるようになりたい」気持ちを引き出すアイディア集。

英語力はどのように伸びてゆくか
中学生の英語習得過程を追う
太田 洋・金谷 憲・小菅敦子・日基滋之　著　●240頁　定価1,995円
「中学二年生の秋」に分岐点がやってくる——生徒の語彙や文法の習得過程、伸びる生徒とつまずく生徒の分岐点などを解明。

英文読解のプロセスと指導
津田塾大学言語文化研究所 読解研究グループ　編
●368頁　定価2,730円
リーディングは創造的な活動——能動的な英文読解のプロセスを明らかにし、指導・評価への示唆を分かりやすく解説。

英語テスト作成の達人マニュアル
靜 哲人　著
●304頁　定価2,520円
テスト作成の悩みに答えます——テスト作成の達人が、作成手順を分かりやすく解説。問題点をつき新しいテストスタイルを提言。

インターネットを活かした英語教育
杉本 卓・朝尾幸次郎　著
●224頁　定価1,890円
新しい英語授業のカタチ——インターネットが英語授業の本質を変える。英語教育と教育学の立場からその活用法を考える。

英語教師のための新しい評価法
松沢伸二　著　佐野正之・米山朝二　監修
●304頁　定価2,520円
生徒の学習を支援する評価を目指して——「実践的コミュニケーション能力」の評価について問題点を整理し、具体的対処を提言。

英語を使った「総合的な学習の時間」
小学校の授業実践
服部孝彦・吉澤寿一　著　●208頁　定価1,890円
小学校での英語活動を成功に導くために——新学習指導要領のもと、英語を使った活動の記録を紹介しながら、具体的に解説。

英語授業改善のための処方箋
マクロに考えミクロに対処する
金谷 憲　著　●192頁　定価1,890円
少しの工夫で大きな効果を！——生徒が英語に接する時間が少ないという問題を解決し、学力を向上させるアイディアを一冊に。

コミュニケーションのための英文法
萩野俊哉　著　クレイグ・ジャクソン　英文校閲
●232頁　定価1,890円
文法とコミュニケーションの調和と融合——活動例と指導手順を提示。コミュニケーション能力を育てつつ文法力をつける。

実践的コミュニケーションの指導
高橋正夫　著
●248頁　定価2,100円
授業にすぐ活かせる活動例を多数紹介——実践的コミュニケーション能力を養成する活動を、中・高の言語材料をもとに豊富に紹介。

アクション・リサーチのすすめ
新しい英語授業研究
佐野正之　編著　●240頁　定価1,890円
個別対応型授業を可能にする——個々の生徒に対応できる授業研究法（＝アクション・リサーチ）を中・高の実践例をもとに紹介。

大修館書店　書店にない場合やお急ぎの方は、直接ご注文ください。☎03-3934-5131